

パソコンからの情報漏洩を防止する “ CRYPTOFILE PLUS for Vista ”

小田切信一*

“ CRYPTOFILE PLUS for Vista ”: Provides File and Whole Disk Encryption Features

Shinichi Odagiri

要 旨

情報技術(IT)は金融、物流、医療、交通等、様々な社会システムの“ 神経系 ”を担うインフラに成長した。高度にネットワーク化された情報社会では便利になった反面、一企業の事件や事故が社会全体に波及することもある。近年、情報漏洩(ろうえい)の事故は多発しており、このような事故が起きると、損害賠償の支払いだけでなく、企業の信頼を失い、時には事業継続が危ぶまれることもある。顧客の信頼を得られる企業として存続し続けるには、情報管理上の事故を最小限にとどめる情報セキュリティ対策が必要である。モバイルパソコンの紛失、電子ファイルの不正コピー、電子メールでのファイル誤送信などの様々な脅威から機密情報を守る対策の第一歩は、機密情報の電子ファイルを暗号化することである。

三菱電機インフォメーションシステムズ(株) (MDIS)では、世界最高水準の暗号技術“ MISTY^(注1) ” “ Camellia^(注2) ”を採用

したファイル暗号ソフトウェアとして、Windows Vista^(注3) 対応の MistyGuard^(注1) < CRYPTOFILE^(注1) PLUS for Vista > (以下“ CRYPTOFILE PLUS ”という。)を開発した。

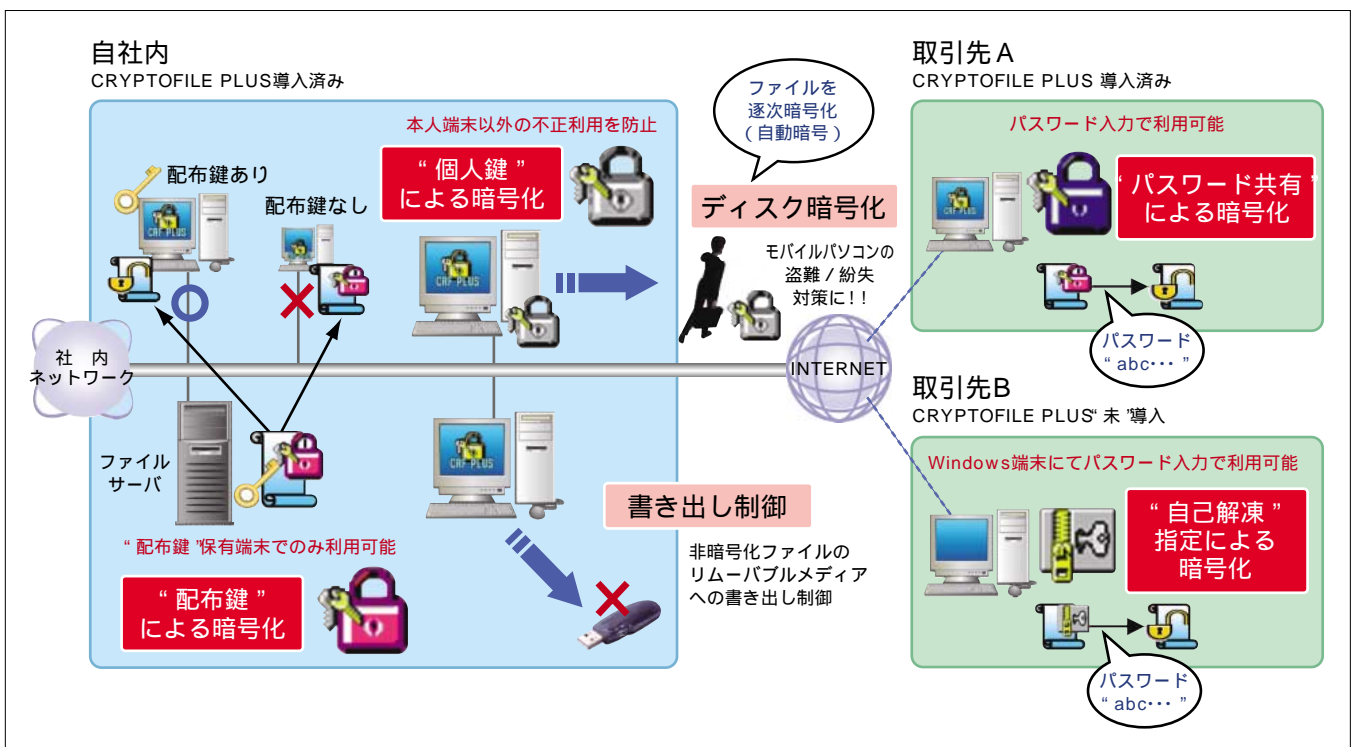
CRYPTOFILE PLUSで機密情報の電子ファイルを暗号化することによって、外部媒体への書き出しや、インターネット経由での外部送信の際に、第三者への情報漏洩を防ぐことができる。また、パソコン内のフォルダやファイルを常に暗号化しておくことで、パソコンの紛失や盗難に対して、第三者からの不正利用を防御できる。

本稿では、CRYPTOFILE PLUSの機能と導入効果を中心に、製品の特長、実現方式、事例について述べる。

(注1) MISTY, MistyGuard, CRYPTOFILEは、三菱電機(株)の登録商標である。

(注2) Camelliaは、日本電信電話(株)と三菱電機(株)の登録商標である。

(注3) Windows Vistaは、米国Microsoft Corp. の米国及びその他の国における商標又は登録商標である。



CRYPTOFILE PLUSの機能概要

CRYPTOFILE PLUSは、世界最高水準の暗号技術 MISTY, Camelliaを採用したファイル暗号ソフトウェアである。利用シーンに合わせて様々な暗号化機能を提供しており、“個人鍵(かぎ)”による暗号化で本人以外の利用を防止したり、“配布鍵”による暗号化で鍵を持つメンバーとだけ暗号化ファイルを共有したり、“パスワード共有”による暗号化や“自己解凍”指定によって暗号化したファイルを取引先へ安全に送信することができる。また、ハードディスクの自動暗号化でモバイルパソコンの紛失/盗難対策も実行する。さらに、暗号化しなければ、USB (Universal Serial Bus)メモリ等へファイルを書き出せないように制御することも可能である。